

「株価・経営者が占う 2017 年」 2017/1/1 複眼週報・渡部清二

高値「2万1000円以上」株価・経営者が占う 2017 年 米景気拡大、円安追い風
2017/1/1 付日本経済新聞 朝刊

<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO11228870Z21C16A2M13100/>

明けましておめでとうございます。
本年も宜しくお願いいたします。

さて毎年恒例の日経新聞の「株価・経営者が占う 2017 年」ですが、私はその記事の切り抜きを 20 年分ぐらい残していて結果を検証しています。
結論は 20 人のほとんどが当たりませんが、たまに 1-2 名ピタリ賞を当てる方がいます。
私は「当たり屋につけ」という相場格言にのっとり、前年の相場を当てた方の意見に注目しています。
ちなみに 2016 年の相場（日経平均、引値ベース）は以下のようになりました。

高値は 12 月の 19494 円

安値は 2 月の 14952 円

※6 月にも安値 14952 円をつけ、「銭」単位で見れば 6 月が最安値でしたが、TOPIX の安値が 2 月のためこちらを採用いたします

では 2016 年の経営者の予想はどうだったかですが、安値予想の最低が 17000 円ですので全員が外れた事になります。

そこで「2 月安値、12 月高値」の前半安、年末高を予想した方を探してみると、ユニ・チャーム高原社長、日本電産永守会長、味の素西井社長の 3 名がいらっしゃいました。
この 3 名の方の今年 2017 年をどのように見ているかは以下のとおりです。

高原社長：高値 22000（12 月）、安値 17000（2 月）

永守会長：高値 22000（4-5 月）、安値 18000（10-11 月）

西井社長：高値 20000（1-6 月）、安値 18000（7-12 月）

高原社長は昨年と同じ時期なのに対して、永守会長と西井社長は今年と真逆の「前半高、後半安」を予想しているところが注目、今のところ私も同じく「前半高、後半安」を予想しています。

西井社長の「米大統領選の混乱が一段落して足元は円安ドル高基調だが、就任後の政策は不透明であり金融市場の変動は続く」というご意見が参考になるのではないのでしょうか。

「原油価格の行方」 2017/03/09 複眼週報・エミシユルマズ

参考記事：WSJ デジタル版 2017/3/8 「Oil Posts Biggest One-Day Decline in 13 Months」

<https://www.wsj.com/articles/oil-falls-as-investors-wait-for-inventory-data-1488977055>

原油価格は3月8日に大きく下落し、WTIは50ドル割れ寸前まで後退した。米国の原油在庫が積みあがったのが原因だが、原油価格の下落幅としては一年ぶりの大下落であった。米国の原油在庫は3月3日の週に8.2百万バレル増加し、市場予想である1.7百万増加を大きく超えた。OPECとロシアの減産合意で原油価格は昨年末から大きく反発したが、結局55ドルを超えることができなかった。そもそもOPECの生産カットは世界の原油生産の1～1.5%程度であるのに対し、原油価格は45ドルから10ドル近く上昇したのがおかしな話である。原油価格の上昇はファンダメンタルズよりも投機的な動きで支えられていたことに違いない。その原油価格は55ドルを何度もアタックするも越えられないとなると一部の強気インベスターはポジション調整をせざるを得なくなってしまった。それが現状であると考える。

原油価格の今後だが、50ドル割れは十分あり得ると思うが、47-48ドルから再び反発する可能性が高いと見ている。OPECの生産カットの実態がまだ把握できていないので、その確認ができる5月のOPEC会合まで原油価格は大きく崩れることはないと見ている。